

気候情報

2014年12月の日本の天候

- 全国的に低温だった
- ほぼ全国的に降水量は多く、日照時間は少なかった
- 日本海側を中心に降雪量は多かった

12月の天気概況

強い冬型の気圧配置となる日が多く、日本付近には強い寒気が流れ込んだため、月平均気温は全国的に低く、北・東・西日本日本海側では、曇りや雪または雨の日が多く、沖縄・奄美でも曇りや雨の日が多かった。降水量は、沖縄・奄美を除いて全国的に多く、特に、北日本日本海側で平年比154%、東日本日本海側で平年比222%となり、12月としては統計を開始した1946年以降で最も多い記録を更新した。また日照時間は、東日本太平洋側を除いて全国的に少なく、北・東・西日本日本海側、沖縄・奄美ではかなり少なかった。月最深積雪は、北陸地方から東北地方で2mを超えた所があったほか、アメダスを含む全国322の観測地点のうち、北・東日本の14地点で、12月の月最深積雪の最も大きい値を更新した。

上旬：日本付近には断続的に強い寒気が流れ込んだため、全国的に気温が低かった。降雪量は、東日本日本海側ではかなり多く、北・西日本日本海側で多かったほか、徳島県でも局地的に大雪となった。また、北・東日本日本海側の降水量はかなり多く、特に、東日本日本海側の降水量は平年比281%となり、12月上旬としては旬の統計を開始した1961年以降で最も多い記録を更新した。沖縄・奄美でも、前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。旬平均気温は、全国的に低かった。旬降水量は、北・東日本日本海側ではかなり多く、北日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。旬間日照時間は、東・西日本日本海側ではかなり少なく、北日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。

中旬：数日の周期で低気圧が通過後、冬型の気圧配置とともに日本付近に強い寒気が流れ込んだため、東・西日本の気温はかなり低く、日本海側では曇りや雪または雨の日が多かった。特に、東日本日本海側の降水量は平年比206%となり、12月中旬としては旬の統計を開始した1961年以降で最も多い記録を更新した。日本海中部と東シナ海から東へ移動した低気圧が、北海道付近でひとつにまとまった後発達したため、17日朝には、根室地方の沿岸で顕著な高潮が発生したほか、18日から19日にかけて、北海道東部を中心に北日本から東・西日本日本海側の広い範囲を中心に大雪や暴風雪となり、名古屋市でも積雪の深さが23cmの大雪となった。また、沖縄・奄美でも曇りや雨の日が多かった。旬平均気温は、東・西日本ではかなり低く、沖縄・奄美で低かった。旬降水量は、北・東・西日本ではかなり多く、沖縄・奄美で多かった。旬間日照時間は、北日本太平洋側、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。

下旬：旬の中頃に北・東日本を中心に強い冬型の気圧配置となったため、北・東日本日本海側の山沿いを中心に降雪量が多かった。一方、北・東・西日本太平洋側では晴れの日が多かった。沖縄・奄美でも、気圧の谷や寒気の影響で曇る日が多かった。旬平均気温は、全国的に低かった。旬降水量は、東日本日本海側ではかなり多く、北日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。旬間日照時間は、北日本日本海側ではかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。一方、東・西日本太平洋側で多かった。

12月の気候統計

月平均気温：全国的に低かった。

月降水量：北・東日本日本海側ではかなり多く、北・東日本太平洋側、西日本で多かった。沖縄・奄美では平年並だった。

月間日照時間：北・東・西日本日本海側、沖縄・奄美ではかなり少なく、北・西日本太平洋側で少なかった。東日本太平洋側では平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

12月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量多い方から (mm)
倶知安 374.5 伏木 647.0 高山 248.5など11地点
- ・月間日照時間の少ない方から (h)
寿都 8.4 酒田 15.7 輪島 22.4
- ・降雪の深さ月合計の多い方から (cm)
小樽 262
- ・月最深積雪の大きい方から (cm)
小樽 112

2014年12月の平年差（比）図

